

2023

8/5

土

13:30
~16:00
(開場13:00)

東北大学星陵キャンパス星陵会館
星陵オーディトリウム2階 講堂
(宮城県仙台市青葉区星陵町2-1)

対象

高校生・大学生及び一般の方

参加費無料

参加希望の方は
QRコードよりご登録下さい
[定員250名] 締切:7/25(火)



好評につき8/4まで申込期間延長
(定員に達し次第、締切)

第46回日本神経科学大会

「銀河に輝く神経科学 -Toward the Galaxy of Neuroscience-」

市民公開講座

東日本大震災からの 復興と将来への展望

神経科学による 心理的ストレスの理解と メンタルヘルス・ケア

プレゼンター



喜田 聡

(東京大学)



富田 博秋

(東北大学)



米倉 一磨

(相馬広域こころの
ケアセンターなごみ)



前田 正治

(福島県立医科大学)

東日本大震災から12年を経た今日、被災地における社会インフラや経済活動は回復しつつあるものの、被災住民の心理的ストレスへの対策は今なお大きな課題として残っています。福島県では東京電力福島第1原発事故との複合災害となり、その住民のメンタルヘルスの問題には独自の性格がみとめられます。

その一方で近年、神経科学の領域では目覚ましい進歩・発展があり、科学的エビデンスに基づく心理的ストレスへの対策が実現しつつあります。私たちは、心理的ストレス発生のメカニズムや増強因子

などについて、この大震災からなにを学んだのでしょうか？その教訓を、東日本大震災からの復興と将来発生し得る被災住民の心身の健康回復のために、どのように活用すればよいのでしょうか？科学の視点から考える震災復興と将来展望について、情報発信します。

このような災害後のメンタルヘルスへの科学的アプローチは、コロナ禍やウクライナ危機など、今まさに世界で生み出されている苦難に対する市民のレジリエンスの理解や現代社会における私たちの共生のありかたに対しても、新たな視点を与えるものと考えられます。

主催：日本神経科学学会 後援：河北新報社／福島民報社／福島民友新聞社

企画者：富田博秋(東北大学)、永福智志(福島県立医科大学)、井口善生(福島県立医科大学)

お問い合わせ

第46回日本神経科学大会事務局
jns2023@aeplan.co.jp

科研費
KAKENHI

このイベントは、科学研究費助成事業(科学研究費補助金)のうち、研究成果公開促進費「研究成果公開発表」(課題番号23HP0019)の交付を受けて運営されています。



トラウマ記憶を消去する

喜田 聡

東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻 教授

金沢生まれ。1989年に東京大学農学部を卒業し、そのまま大学院に進学して1994年に博士号を取得した。1996年に米国コーネル大学スプリングハーバー研究所に留学して記憶研究を開始した。帰国後は東京農業大学に着任して教授を経て2019年より現職。記憶のメカニズムの基礎研究を進めてきた。さらに、医師免許を持たない基礎研究者であるものの、精神疾患研究にも従事し、文科省科学研究費（新学術領域）の領域代表を務め、心的外傷後ストレス障害（PTSD）のメカニズムの理解と治療法の開発を試みている。



災害メンタルヘルス支援体制向上のために求められる神経科学の発展

富田 博秋

東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野 教授

1989年 岡山大学医学部卒、同大学神経精神医学教室入局
 1995～1997年 岡山大学大学院医学研究科修了後、兵庫県・高岡病院勤務
 1997～2000年 長崎大学・医学部・人類遺伝学教室
 2000～2006年 カリフォルニア大学アーバイン校医学部・精神医学講座
 2006～2012年 東北大学大学院 医学系研究科 精神・神経生物学分野 准教授
 2011年3月～現在 東日本大震災以来、宮城県を中心に被災地の精神保健支援活動に従事
 2012年4月～現在 東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野 教授 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構を兼任
 2018年12月～現在 東北大学 大学院医学系研究科 精神神経学分野 教授



専門家の心のケアって何だろう？

米倉 一磨

NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
 相馬広域こころのケアセンターなごみ センター長

航空自衛官、陸上自衛官を経験し、福島県南相馬市の精神科病院で10年間看護師として勤務。東日本大震災の福島第一原子力発電所事故で福島県相双地区すべての精神科病院が休診となり、平成23年3月29日より福島県立医科大学こころのケアチームにボランティアとして参加。相双保健福祉事務所等臨時勤務として同活動に従事し、平成24年1月より NPO法人新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会（通称なごみ）、相馬広域こころのケアセンターなごみ センター長として勤務。福島県立医科大学大学院 看護学研究科 精神看護学修了。精神科認定看護師。著書に「災害看護と心のケア福島「なごみ」の挑戦」（岩波書店）。



福島原発事故がもたらしたところへの影響：支援の現場から

前田 正治

福島県立医科大学医学部 災害こころの医学講座 主任教授
 放射線医学県民健康管理センター 健康調査・県民支援部門長
 ふくしま心のケアセンター 副所長

1984年、久留米大学医学部卒業。同大准教授を経て、2013年より現職。専攻は災害精神医学、精神医学的リハビリテーション。ガルーダ航空機墜落事故(1996年)、えひめ丸米原潜沈没事故(2001年)等で被災者の精神保健調査・支援の責任者を務めた。2014年から現職。日本トラウマティック・ストレス学会会長を2010年から3年間務めた。現在は福島県立医科大学で災害こころの医学講座を主宰しつつ、福島原発災害被災者の支援や調査研究に従事している。またコロナ・パンデミック以降は、国連常設機関IASCケアガイドラインの翻訳責任者、県内のクラスター発生病院等のメンタルヘルス支援責任者を務めている。編・著書として、「心的トラウマの理解とケア」じほう出版、「生き残るといふこと」星和書店、「PTSDの伝え方：トラウマ臨床と心理教育」誠信書房、「福島原発事故がもたらしたもの」誠信書房、「東日本大震災とこころのケア：被災者支援10年の軌跡」日本評論社、「遠隔支援スキルガイド」誠信書房、「コロナ禍における医療・介護従事者への心のケア：支援の現場から」誠信書房ほか